

2018/07/05

# 大阪府北部を震源とする地震 鉄道通勤者の行動実態調査 (速報)

関西大学社会安全学部  
教授 元吉忠寛

# 調査の目的

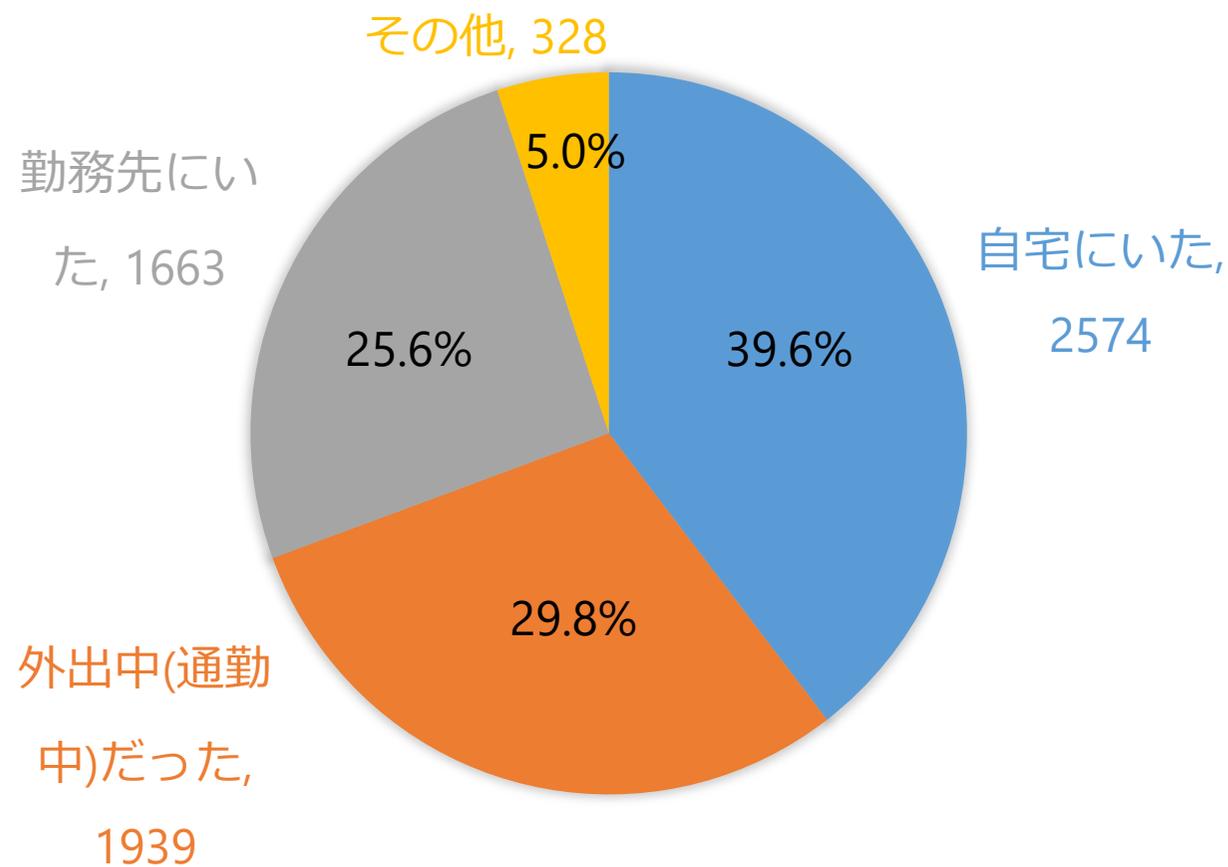
- 2018年6月18日7時58分ごろ、大阪北部を震源とする最大震度6弱の地震が発生した。朝の通勤ラッシュの時間帯を直撃し、関西の鉄道各社は運行を見合わせ、多くの人が電車内に閉じ込められたり駅に滞留したりして大きな影響を及ぼした。
- この実態を定量的に把握する目的で基礎資料を収集し、災害時の鉄道会社の情報提供の仕方や通勤行動の意思決定対策に向けた方針を模索する。

# 調査方法

- インターネット調査
- 2018年6月26日から27日
- 年齢：20歳～69歳(平均年齢46.3歳(SD=9.81))
- 大阪府、京都府、兵庫県、奈良県に在住の働いている方6,504名を対象
- 地震発生時に、通勤中で電車の中にいた436名と駅構内にいた64名の計500名(男性394名、女性106名)に対してより詳しく調査

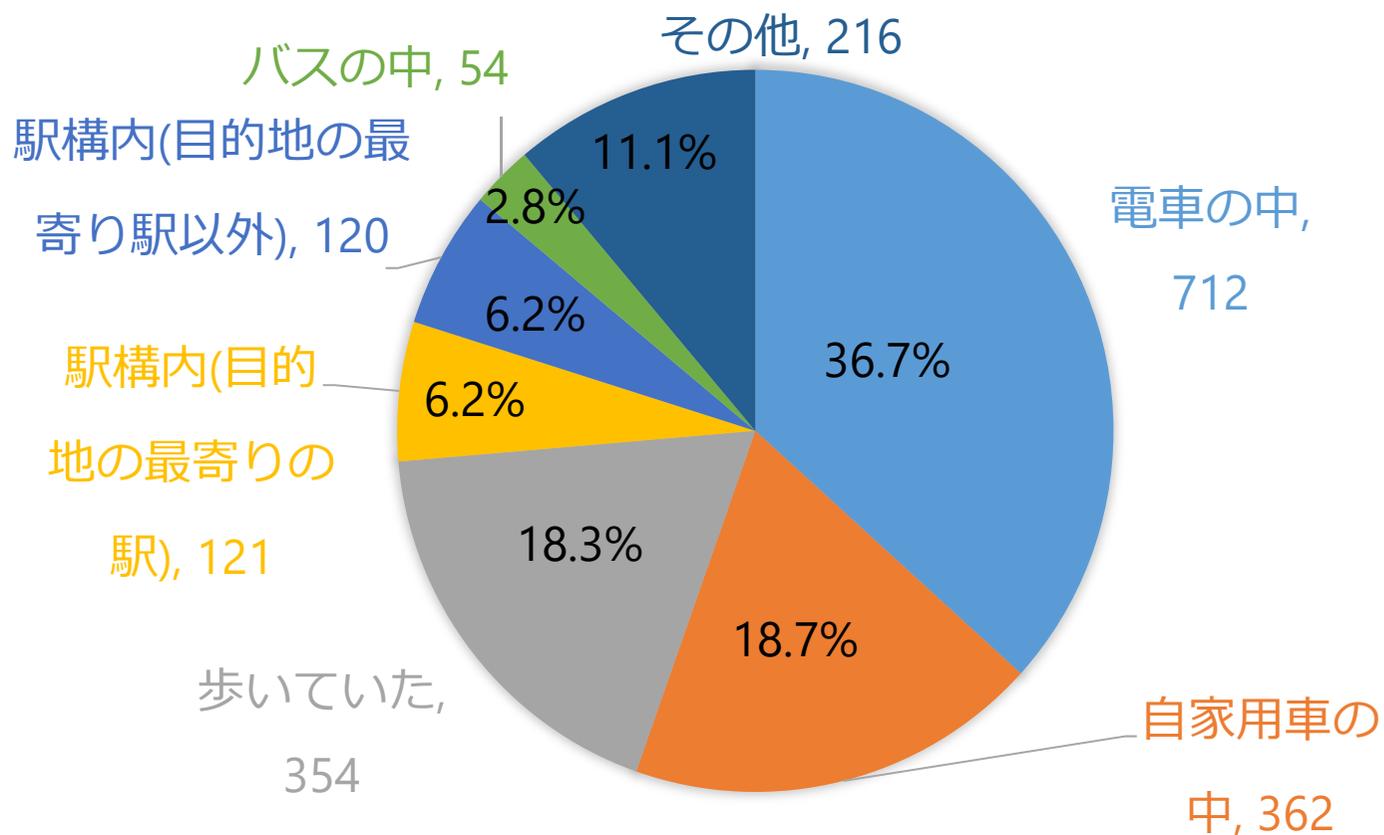
# 発生時の状況

- 対象者6,504名のうち

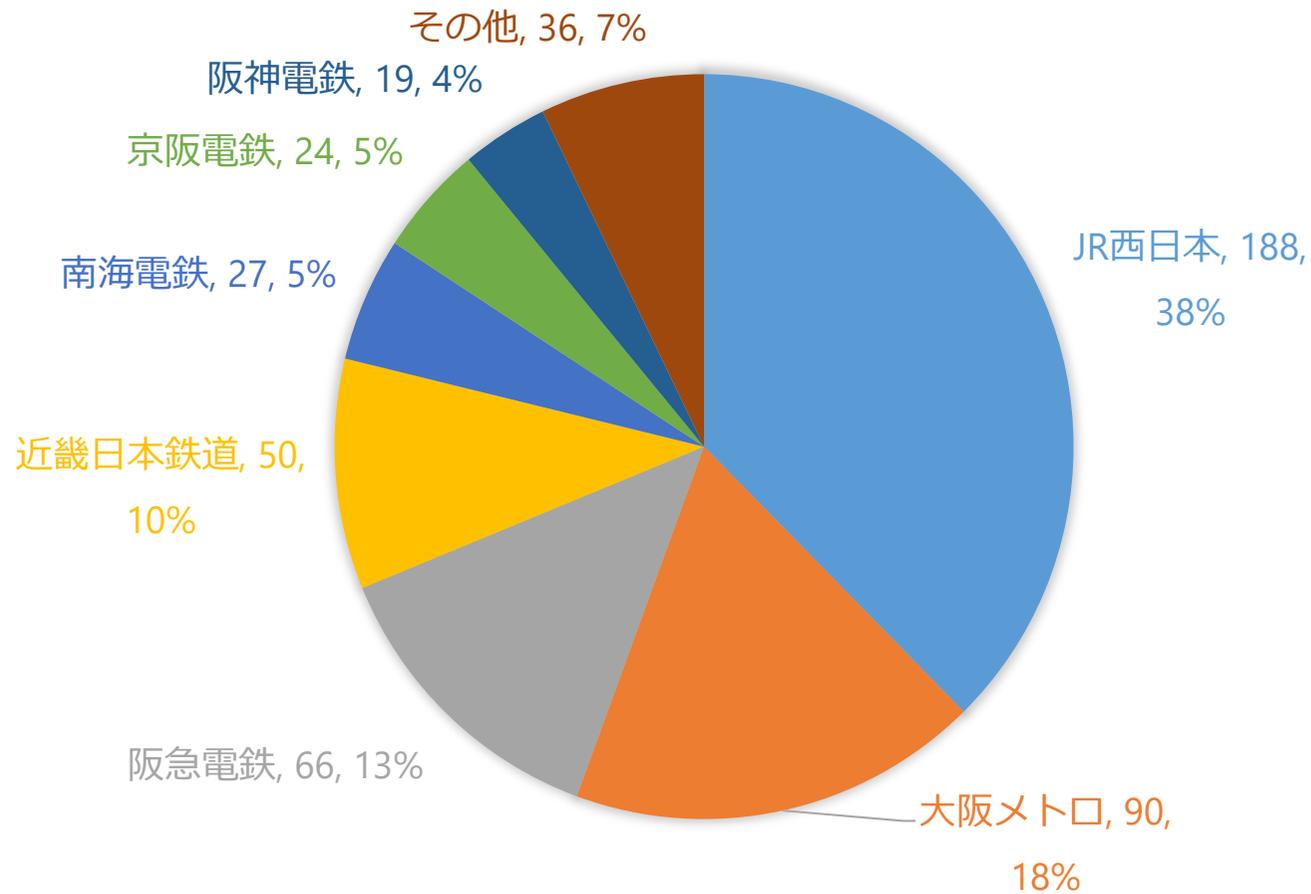


# 発生時の状況

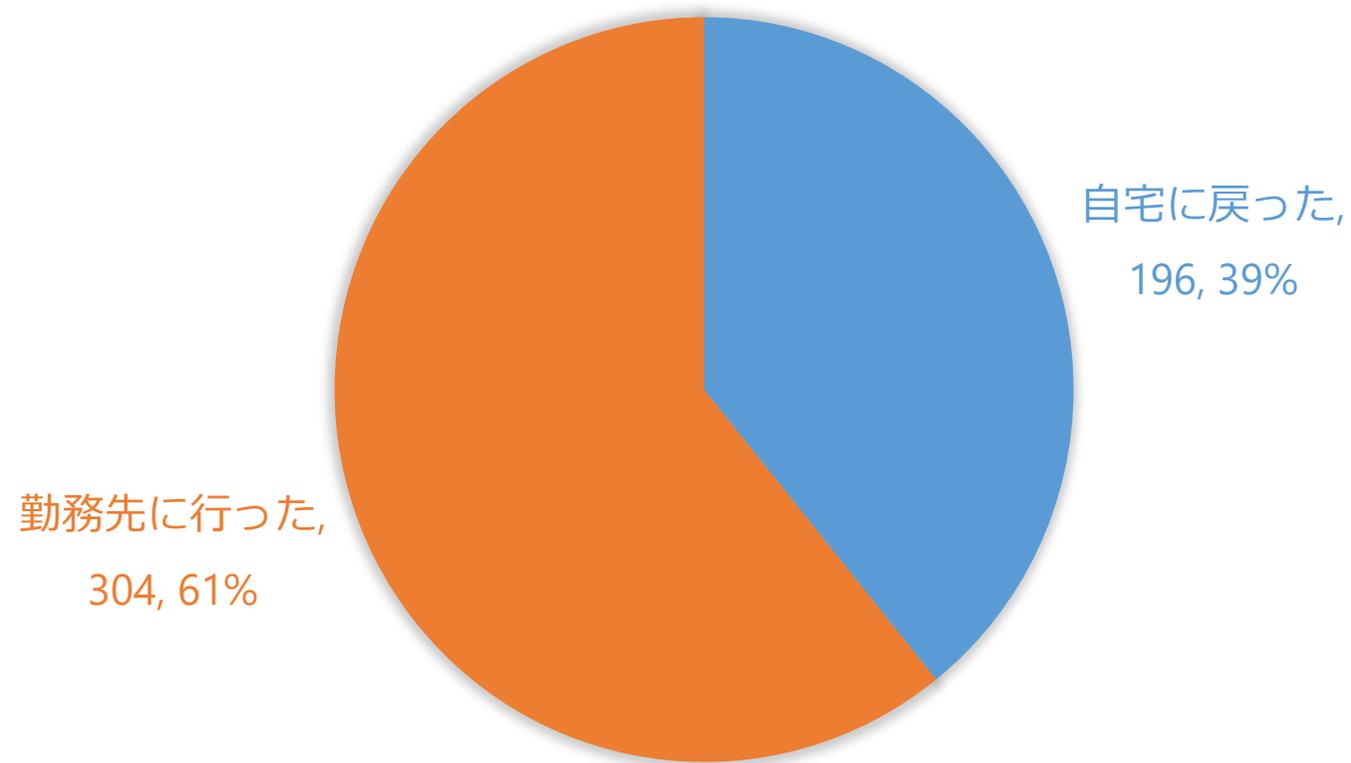
- 通勤中だった1,939名のうち



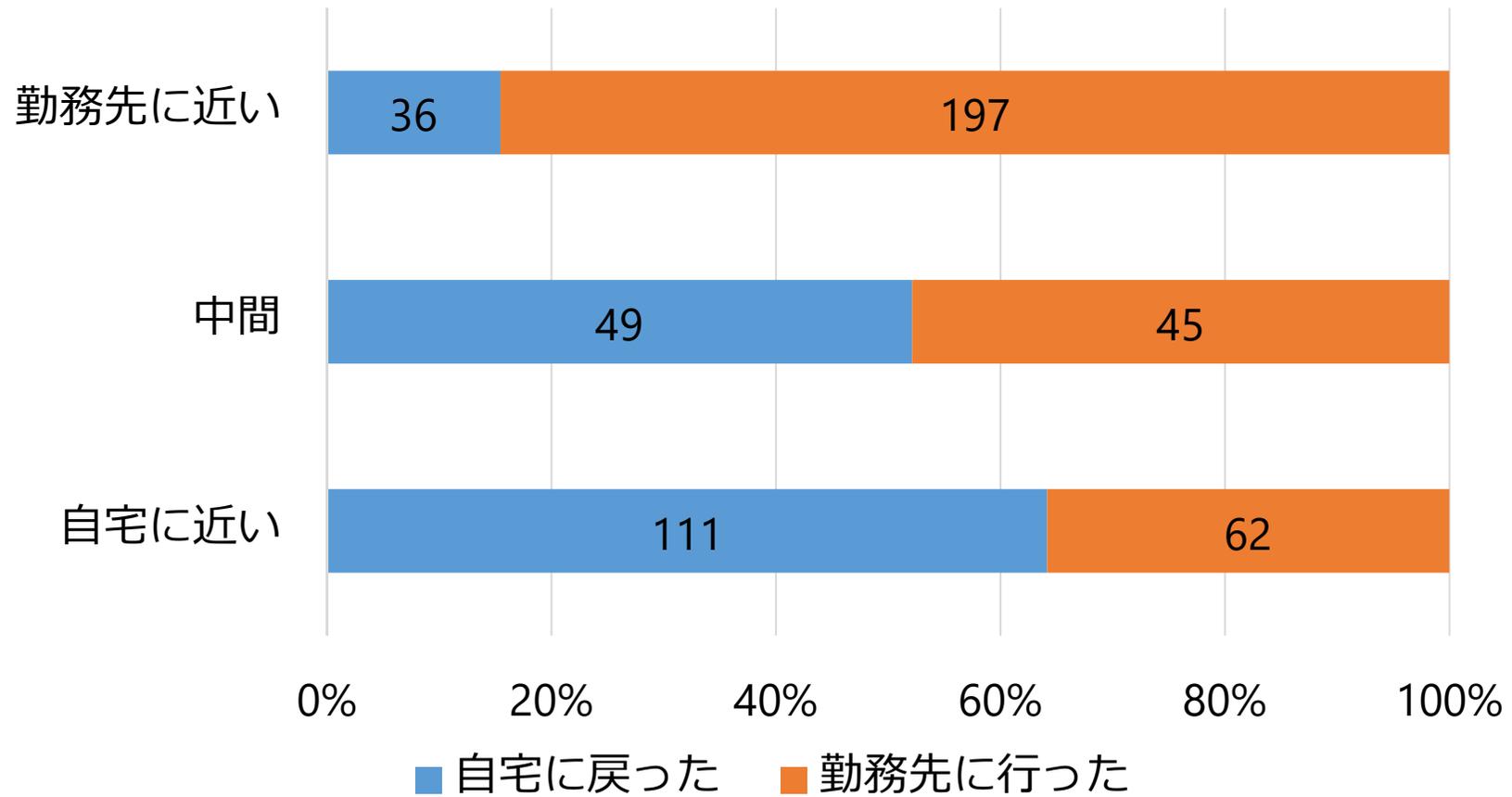
# 地震発生時にどの鉄道を 利用していたか



# 地震発生後どこに向かったか



# どの場所にてどこに行ったか

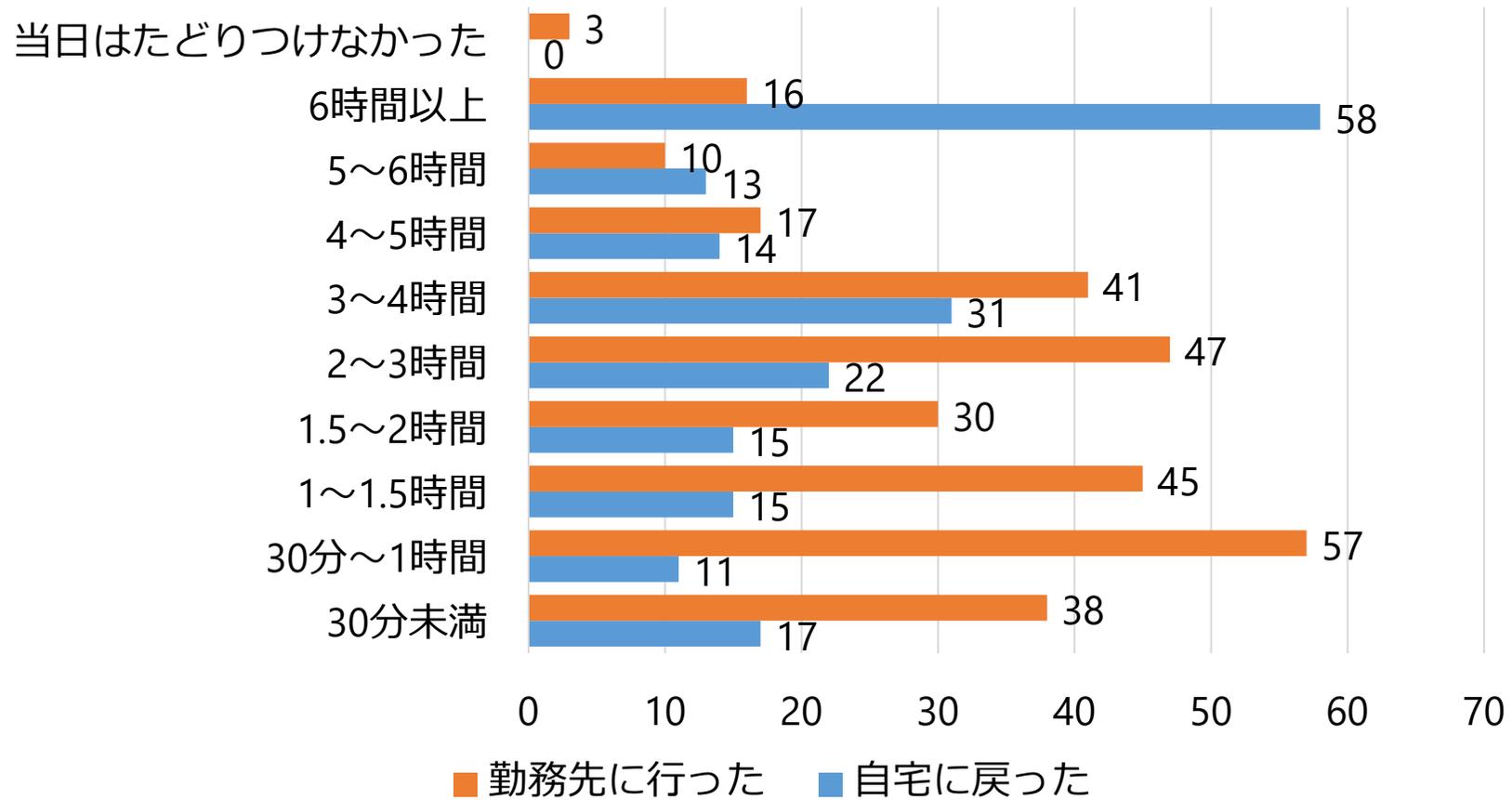


(人)

# 調査結果のまとめ①

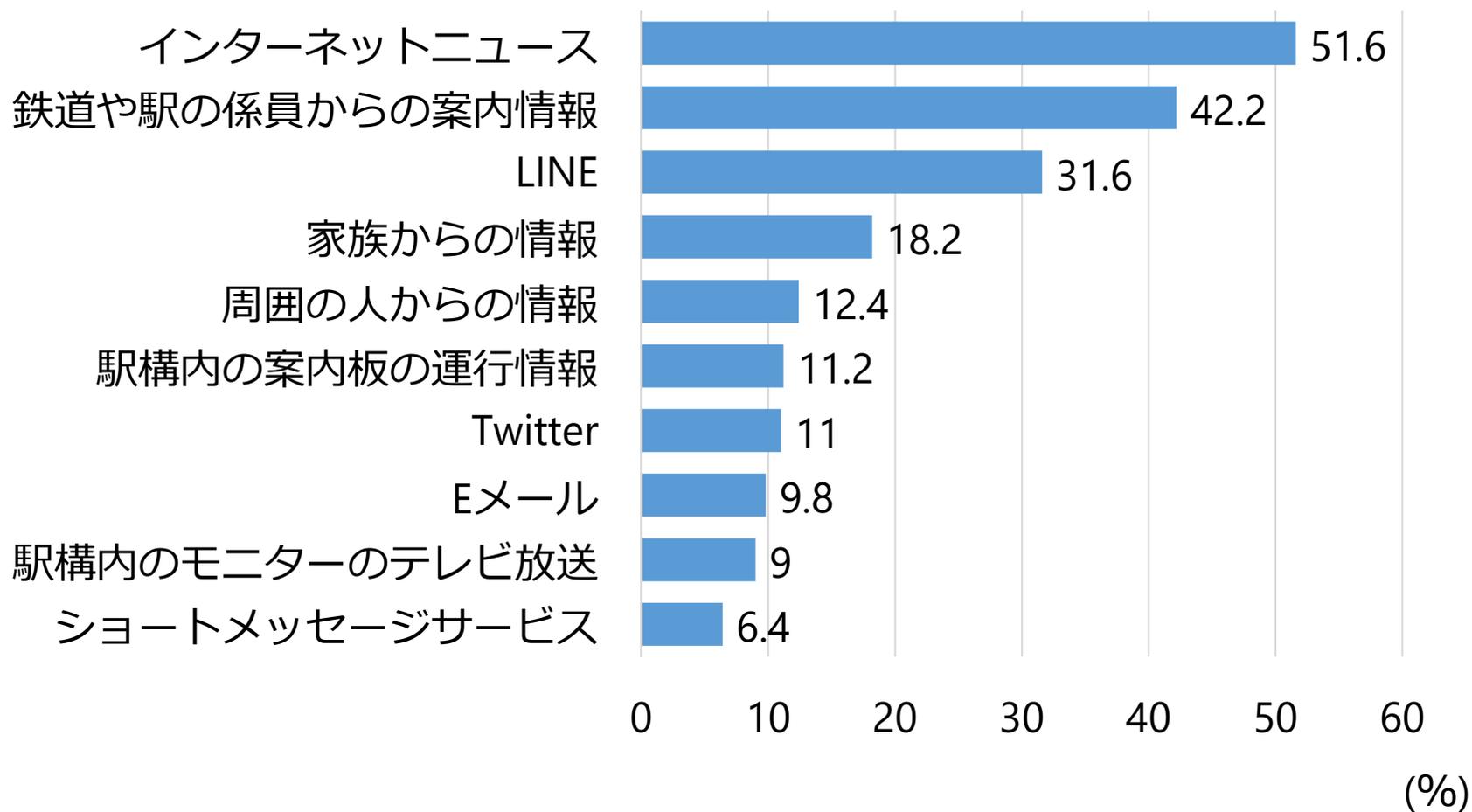
- 自宅よりも勤務先に近い場所にいた人（233人）のうち、勤務先に向かった人84.5%（197人）が多いのは当然ですが、勤務先よりも自宅の方が近い場所にいた人（173人）のうち勤務先に行った人も35.8%（62人）いました。
- 災害時に無理をしてでも勤務先に向かおうとする人々の行動は、社会的な混乱を大きくする可能性があります。

# 自宅または勤務先に着くまでにかかった時間



(人)

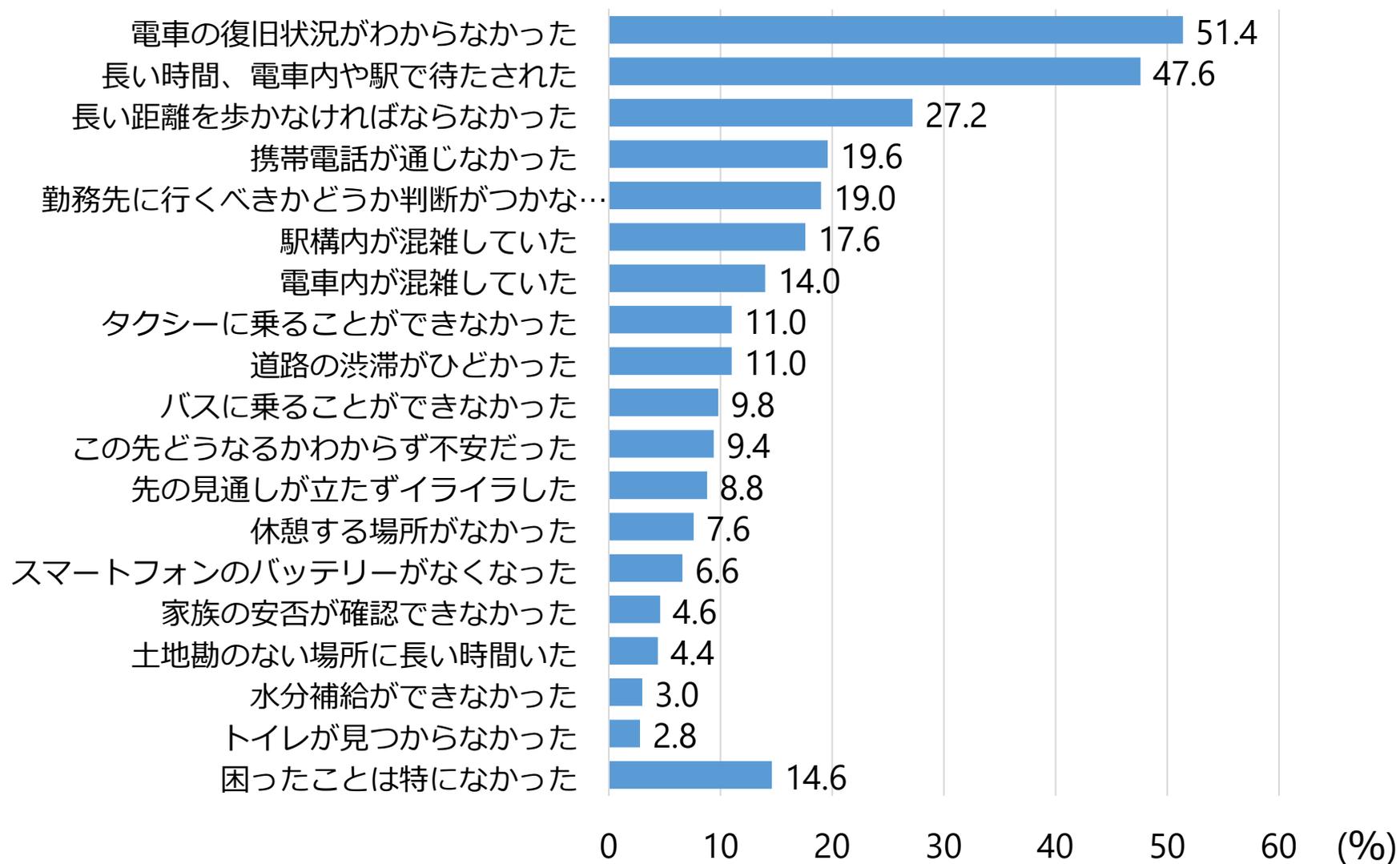
# 情報を得るのに役立つもの



## 調査結果のまとめ②

- 情報を得るのに役だったものとしては「インターネットニュース」が51.6%と最も多く、その他「鉄道や駅係員からの案内情報」(42.2%)、「LINE」(31.6%)、「Twitter」は11.0%となっていました。
- 今回の地震ではスマートフォンを使って情報収集を行った人が多くいることがわかります。
  - ただしインターネット調査であったため、この結果にはバイアスがかかっている可能性があります。

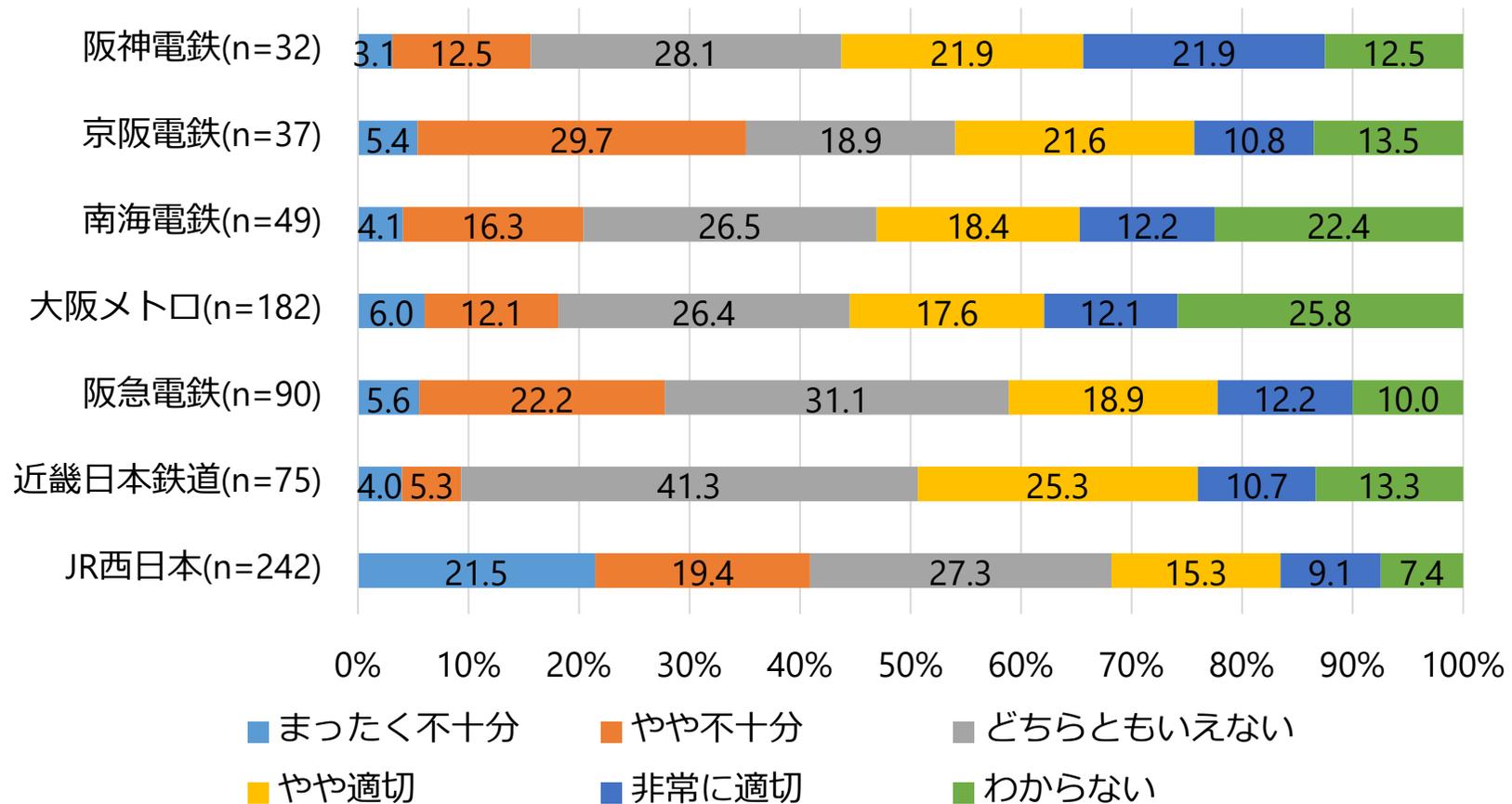
# 困ったこと



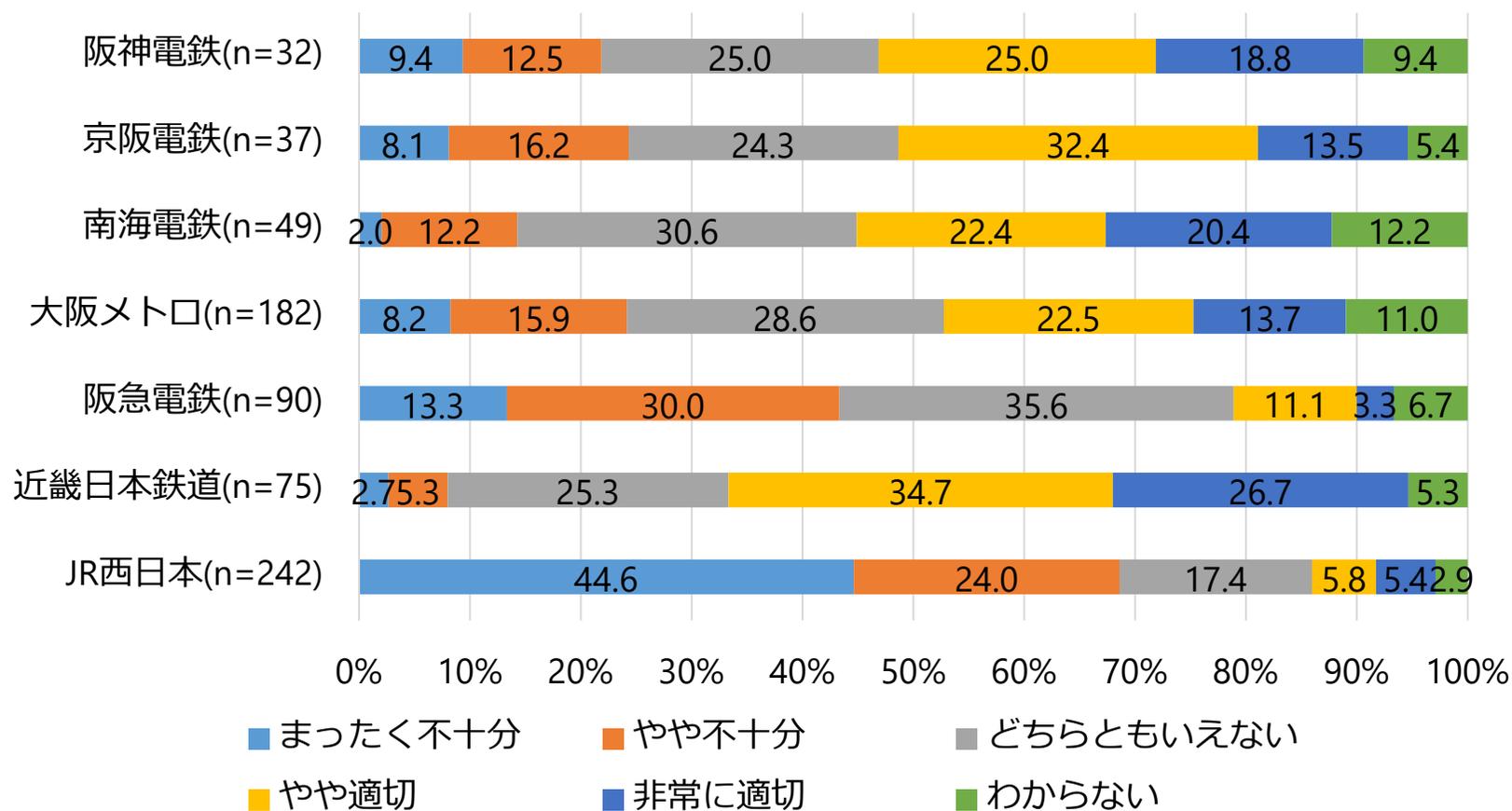
## 調査結果のまとめ③

- 「電車の復旧状況がわからなかった」が51.4%、「長い時間、電車内や駅で待たされた」が47.6%と多かった一方、「この先どうなるかわからず不安だった」は9.4%、「先の見通しが立たずイライラした」は8.8%と少なくなっていました。
- 長い時間がかかっても、比較的冷静に行動していたことが推察されます。

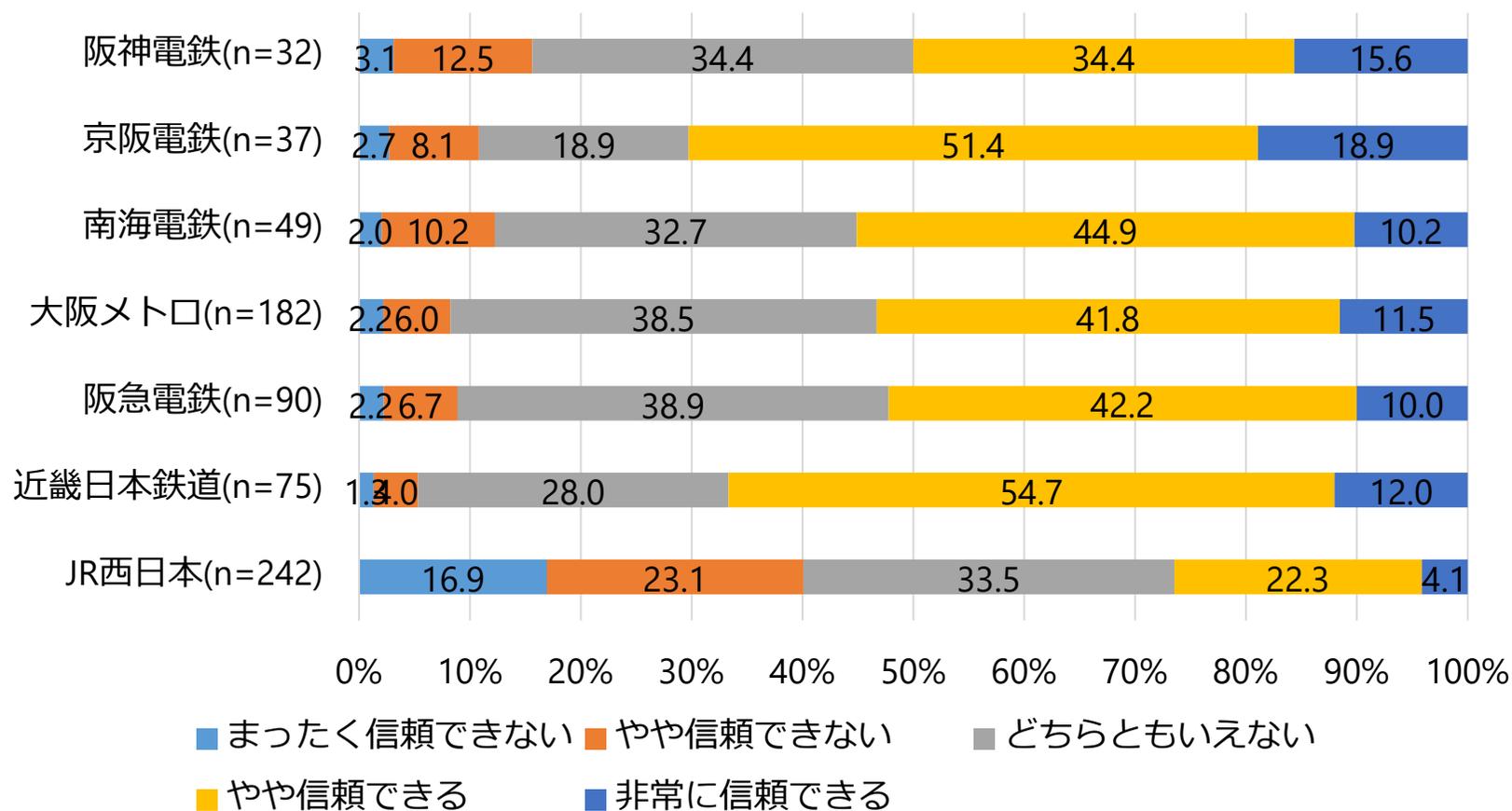
# 鉄道会社や駅員直後の対応 についての評価



# 復旧状況に関する評価



# 鉄道会社に対する信頼



## 調査結果のまとめ④

- 復旧の遅くなったJR西日本に対する評価が非常に低く、阪神、京阪、南海、大阪メトロ、阪急、近鉄に対しては、「やや信頼できる」と「非常に信頼できる」をあわせると50%以上の評価でしたが、JR西日本だけは26.4%にとどまりました。